

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間：2005年9月中旬から10月下旬までの旬別  
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業：さんま棒受網漁業  
 対象魚群：南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月中旬には低位から中位に増加し、10月上旬頃ピークに達する。10月中旬には急減。10月下旬には低位水準となり減少を続ける。
- (2) 漁場：9月中旬は、落石～釧路沖では漁場が持続し、襟裳岬周辺では散発的に漁場ができる可能性がある。9月下旬は襟裳岬周辺の漁場も持続する。10月中旬から落石沖の漁場は散発的となり、10月下旬は、襟裳岬周辺が主漁場となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量：9月中旬には断続的ながら漁場が形成される可能性がある。9月下旬から本格的に漁場が形成され、10月中旬以降は中位水準で推移する。
- (2) 漁場：9月中旬には八戸～宮古沖において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月上旬まで八戸～宮古沖が主漁場となり、10月中旬以降は漁場が三陸南部にまで広がる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量：9月下旬～10月上旬は、来遊量が少なく、漁場はできて断続的である。10月中旬以降、低水準ながら来遊はあるが、本格的に来遊するのは10月下旬以降となる。
- (2) 漁場：10月中旬までは、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬以降は、常磐北部～鹿島灘が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位増加	高位水準	急減	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	襟裳岬周辺
三陸海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位増加	中位水準	中位水準
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	断続的	低位水準	低位増加
	漁 場		北部	北部	北部	常磐北部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、平年並の水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半は来遊量が少なかったが、徐々に増加。26日～27日にかけて来遊量はピークとなり、その後減少。29日～31日にかけては再び低水準となった。

##### (2) 漁場

落石南南東 20～40 海里付近の表面水温 13～18℃と、厚岸大黒島南 15 海里～釧路南 20 海里付近の表面水温 16～20℃が主漁場であった。期初めは、来遊量が少なく漁場は形成されなかった。期前半は徐々に水温が下がり、釧路沖でも漁場が出来たが、後半は水温が上昇し、落石沖の漁場も群れが薄くなった。

落石沖の漁場は、23日夜～29日夜にかけてと、31日夜に形成された。小型船が主体で1隻当たり8～13トン程度漁獲。25日夜には大型船も加わり、1隻当たり10～60トン程度漁獲。

厚岸大黒島沖～釧路南沖の漁場は、28日夜～30日夜に形成された。小型船が主体で1隻当たり8～13トン程度漁獲。28日夜には大型船も加わり、1隻当たり10～60トン程度漁獲。

##### (3) 魚体

31～32cmの大型魚が主体。調査船による結果では、体長34cmを越えるものもあった。